



スパイラルレポート

SPIRAL REPORT



協同して創ろう、笑顔あふれる暮らし



「近江八幡市 沖島のやさしいアイス」開発に協力



東近江市 見守りおむつ宅配便

スパイラルレポート2017の
発行にあたって



組合員と職員が共に育ち、
滋賀に根づく生協を共に
創っていきます。

日頃より、コープしがの事業と活動を支えていただき誠にありがとうございます。

2016年度、「協同して創ろう、笑顔あふれる暮らし」を基本方針として掲げ、組合員の事業・活動への参加を強め、「暮らしの願い」を協同の力でかなえていくことを重点にすすめてきました。コープせせ店、コープもりやま店の好調と、また、ラブコープキャンペーンを始めとした、生産者との交流、商品の良さを知り広げる取り組みなどにより、利用が広がり大きく成長できた1年でした。利用や活動を支えていただいた組合員の皆様、生産者・取引先の皆様をはじめ関係各位に感謝申し上げます。

2016年度に開催したばくばくパーティーでは、2万人を超える組合員・県民の声が寄せられました。その中には、家計の厳しさ、親の介護や一人暮らしへの不安、「子どもを預かってもらえない」「子どものことを相談できる人がいない」など子育ての悩み、仕事と子育ての両立や買い物の不便さなど、様々な困りごとがありました。また、機関会議や組合員が集う場でも、食や農業、琵琶湖や環境保全への声、福祉への関心ごと、地域特有、世代特有の課題や生協への期待がたくさん寄せられています。暮らしを営む中で、地域や環境、世代やライフスタイルが異なると、困りごと様々です。

生協は組合員と職員が協同して組合員の願いを事業や活動を通して実現していく組織です。より良い暮らし、笑顔があふれる暮らしのための、助け合いの組織です。そのために、一人ひとりが、暮らしの中で、思い合い、考え合い、学び合い、そして行動していくことを大切に、組合員と職員が共に育ち、滋賀に根づく生協を共に創っていくことをめざしていきます。私たちの事業と活動そのものが価値を輝かせ、協同組合として組合員の暮らしに応える役割を果たし続けながら、地域社会への役立ちを自覚し、事業・運営をすすめます。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

2017年6月
生活協同組合コープしが
理事長 西山 実

CONTENTS

ふだんの暮らしへの役立ち

- P.3 宅配事業
- P.4 店舗事業
- P.5 夕食サポート事業/サービス事業
- P.6 介護保険事業/共済事業
- P.7 食の安全・品質保証/組合員の声
- 地域づくりへの参加
- P.9 地域の見守り活動
- P.10 東日本大震災復興支援の取り組み

世界と日本社会への貢献

- P.11 県内農業・日本農業の発展に向けて
- P.12 平和の取り組み
- 元気な組織・健全な経営づくり
- P.13 ささまざまな組合員活動
- P.14 「たべる*たいせつ」活動
- P.15 働きがいのある職場
- P.16 ルールに基づいた運営

環境報告

- P.17 組合員の環境活動
- P.19 事業に関する環境報告
- コープしがの概要
- P.22 コープしがの概要

宅配事業

■ 安全・安心の商品を便利にお届けします。

宅配は県下9カ所の宅配事業センターから、毎週約13万世帯に安全安心の商品を便利にお届けしています。

注文して商品が届くのは1週間後。今の時代ちょっと遅いのではと感じておられる方もありますが、利用してみるとじっくり考えて注文して、届くまでが待ち遠しいというのが暮らしのサイクルに合っていて、年々利用者が増えています。しかも子育て世代、高齢世代、お勤めで忙しい家庭などの暮らしを様々な商品やサービスで応援します。



■ 豊富な品ぞろえ

定番の食品「エコー」、県内商品「ばくばくエコー」、お取り寄せ、日用品や雑貨、洋服まで、暮らしに必要な商品をたくさんカタログの中から選べます。



■ 選べる注文方法

手書きの「OCR注文書」、インターネット「eフレンズ」、コールセンター「電話・FAX」と自分に合った注文方法で注文。併用もできて便利です。



■ 暮らしにあったお届け方法

● 共同購入（グループ届）

3人以上まとまれば代表の方のお宅に届けます。ほとんどの商品が個人別に分かれていますので仕分けも簡単。手数料も不要です。

● 個配

個人のお宅までお届けします。受け取り時にご不在でも気兼ねなく利用できます。安心シールやセーフティカバーで安心してご利用いただけます。手数料が必要です。

● ステーション購入

地域の酒屋さんやクリーニング屋さんなどに商品を預かってもらい、お勤めの帰りなどに引き取りに行くシステムです。手数料は不要です。

■ 暮らしをサポートするサービス

● 赤ちゃんサポート

満1歳までのお子さんをもちのお母さんをサポート。毎月偶数週にサポート商品を無料でお届けします。個配の方は手数料が「ぬくもり割引」よりさらに安くなります。（ご利用者：3,277人）

● ぬくもり割引

個配の配達手数料を割引くサービスです。対象は、65歳以上の方、3歳未満の子育て中の方、障害のある方やそのご家族です。（ご利用者：32,678人）

● わくわく便

離れて暮らすお子さんなどに生協商品を宅配便で届けるサービスです。生協商品を子供に食べさせたいというお母さんの思いから生まれました。（登録者：2,866人）

● 個配メールサービス

商品をお届けした時の状況を離れて暮らすご家族にメールでお知らせします。

店舗事業

■ 新鮮な商品と品揃えの良さにこだわっています。

コープぜぜ店、コープもりやま店では、「おいしさ」「楽しさ」「あったかさ」があふれるお店をコンセプトに、組合員の声に応え、新鮮な商品と品揃えの良さにこだわっています。



コープぜぜ店

■ 提案型の売場、簡単手間なし商品の充実。

毎週2回、楽しい食卓がイメージできる和・洋・中の料理メニューを提案する売場を作り、新しい食べ方やおいしい食べ方の提案をしています。また、総菜を中心に便利な手間なし商品の充実をすすめています。



メニュー提案の売場



惣菜コーナー



カットフルーツ

■ 組合員の店舗利用をサポートする「お届け便」

お届け便は、電話でご注文された商品をご自宅にお届けする「お買い物代行」と、店内でお買い上げされた商品をご自宅にお届けする「お買い上げ配達」の2つがあります。お買い物に出にくい方、ご高齢の方に重たい物などを届けてもらい助かっていますと嬉しい声をいただいています。



お買い物代行

トピック

近江八幡市沖島小学校の「沖島子どもチャレンジ特産品開発事業」にコープしがの店舗も協力しました。離島振興の一環で小学生が沖島の特産品づくりを行いました。沖島でとれるサツマイモを使ったアイス、東近江市の池田牧場で「沖島のやさしいアイス」として商品化しました。コープしがの店舗職員も商品づくり、販売方法など授業を通じて関わり、完成したアイスはコープもりやま店で小学生たちが販売しました。



小学生への接客指導



コープもりやま店で販売

沖島のやさしいアイス



夕食サポート事業

■ 夕食サポート事業「つながり」は、笑顔の食卓をサポートします。

夕食サポート事業「つながり」は、高齢者、一人暮らし、共働き、育児などで毎日の夕食作りに困っておられる方に栄養バランスを考えた“おいしい”夕食弁当をお届けし、楽しく健康的な食生活を応援しています。

夕食サポート「3つの特徴」

1. 当日の朝から作ったお弁当を、冷蔵で夕方6時までにお届けします。
2. 栄養バランスを考えた健康的な献立。薄味仕立ての日替わりメニューが充実しています。
3. 毎日（月～金曜）、夕食サポーターが笑顔で手渡しします。（お留守の場合は保冷箱で。）



夕食宅配のお届け



健康献立食

【健康献立食】

お体の状態にあわせて3つのコースから選べて、冷蔵の宅配便でお届けします。

- 「やわらか食」（ふつう食）：健康な高齢者の方に
- 「介護食」（きざみ食・ムース食）：嚥む力・飲み込む力の弱い方に
- 「健康管理食」（カロリー調整食・たんぱく調整食）：糖尿病や腎臓の負担が気になる方、透析をされている方に

サービス事業

■ 暮らしを便利に、快適にするサービス事業

安心して利用できる商品やサービスを提供し、暮らしの便利さや快適さを広げていきます。サービス事業で紹介する商品やサービスは、職員が事業者を訪問してサービスの品質を確かめています。また、「ささえあいサポート」と連携し、組合員さんの困りごとの相談にも対応しています。

取扱いの商品やサービス

- | | | |
|----------------------------|--------------|-------------|
| ● チケット（テーマパーク・食事券・コンサート等） | ● ピアノ調律 | ● 置き薬 |
| ● 頒布会（手づくりキット・東急ハンズ・日比谷花壇） | ● ピアノ買取 | ● 車検 |
| ● 相談会・学習会等（住まいに関する事など） | ● DVD編集 | ● 自動車買取 |
| ● 洋服の青山・はるやま（組合員特典） | ● 自動車教習所 | ● 浄水器 |
| ● 布団の丸洗い・打ち直し | ● レンタル浄水器 | ● ペット葬 |
| ● 眼鏡市場（組合員特典） | ● イトマンフィットネス | ● アート引越センター |
| ● 畳・ふすま・障子等のリフォーム・新調 | ● ブランド品等宅配買取 | ● 洗濯便 |
| ● 学習関連（ポピー・スマイルゼミ等） | ● 宅配水 | |
| ● 住宅リフォーム・修繕・新築等 | ● 補聴器 | |



介護保険事業

■ よりよい暮らしをともにつくる福祉をめざして

コープしがは福祉を「一人ひとりの人が社会的なつながりの中で、よりよい暮らしをともにつくること」と広くとらえ、組合員、地域の方々とともに「暮らしを創造する福祉」をめざしています。



ケアサポートセンターぼこ野洲

コープしがとして高齢者を支える介護保険事業を行う「ケアサポートセンターぼこ」では、デイサービス、ヘルパーステーション、ケアプラン作成と3事業に取り組んでいます。2016年度は「ケアサポートセンターぼこ野洲」を開設し、野洲、守山、栗東、草津の方に向けてヘルパーステーション、ケアプラン作成の2事業をスタートし、より多くの組合員へお役に立てるよう取り組んでいます。

特にデイサービスは食を大切に、ダイルールの隣の厨房で生協商品を使って一から調理し温かい食事を提供し喜んで頂いています。また、ヘルパーステーションはその人らしい暮らしを護る介護を理念に持ち、愛情のこもった言葉、優しさを感じる表情を軸に、利用者の気持ちを汲み取った対応を日々行っています。



デイサービスぼこ



ヘルパーステーションぼこ
（ご利用者と外出）



デイサービスぼこの食事

共済事業

■ 組合員の暮らしの安心を広げるコープ共済

— 顧客満足度4年連続No.1 — ※2016年度JCSI(日本版顧客満足度指数)調査結果 生命保険部門

手ごろな掛け金でしっかりと組合員の家族みんなの保障の中心になりたい。CO・OP共済は組合員の声でだんだんと充実していきます。2016年度は、《たすけあい》ジュニアコースの満期年齢が19歳から20歳となり、他にも《たすけあい》に付帯できる「先進医療特約」が誕生しました。

お誕生日には「おかわりございませんか」「共済金の請求忘れはございませんか」の手紙を届けて、請求忘れゼロを目指しています。

2016年度契約件数：102,649件、共済金お支払件数：16,457件（6億8,925万円）



店舗共済カウンター



暮らしの見直し講演会



2016年度JCSI(日本版顧客満足度指数)調査結果 生命保険部門

食の安心をめざした食品安全・品質保証の取り組み

■ 安全・品質管理の向上のために、食品工場や農畜産農家などと協力しています。

商品の品質を保証し、安全な商品をお届けするためには、食品工場や生産農家における管理状況の確認が欠かせません。実際に食品工場や生産産地を訪問して、提出いただいている商品仕様書の内容どおりに製造・生産されているかどうか、施設や設備の衛生管理の状況などを確認し、必要に応じて改善をお願いしています。



食品工場の点検



食品工場の点検



牛舎の点検



農産産地の点検

● 2016年工場・産地点検数

取引先	件数
水産・畜産	17
日配・牛乳	18
パン・菓子	10
一般食品	11
産直農産産地・農家	31
産直畜産農家	10

食品工場の点検では、どんな事をチェックしているの？

✓ 工場作業員の衛生管理

- ・作業員の健康状態を確認しているか？
- ・工場内に私物や不要物の持ち込みを禁止しているか？
- ・清潔な作業着や、帽子・マスクを正しく着用しているか？
- ・毛髪除去や手洗いをしっかり行える設備になっているか？ など

✓ 製造施設・設備の衛生管理

- ・出入口・窓の開けっぱなしや、シャッターなどに隙間は無いのか？
- ・製造機器や器具は、それぞれ決められた洗浄が実施されているか？
- ・工場内は整理整頓され、不必要なものの放置はないか？
- ・虫やネズミの侵入・発生を防いでいるか？
- ・洗浄・殺菌など薬剤は、決められた位置に保管されているか？ など

✓ 製造工程の管理

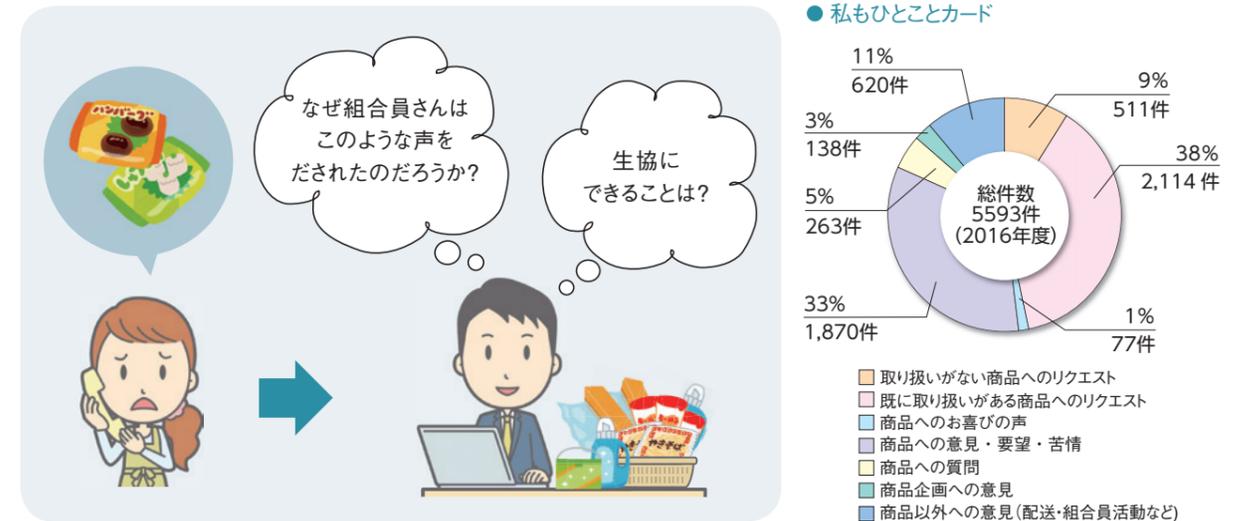
- ・原料の受入れ時には品温の確認の他に、外装の汚れや破れなども確認しているか？
- ・商品毎に正確に仕込みが行われ、加熱や冷却基準を逸脱していないかを確認しているか？
- ・冷凍及び冷蔵の原料、加熱後や冷却後の半製品を常温に放置していないか？
- ・自動計量器や金属検出機が、正しく作動しているかを確認しているか？
- ・消費（賞味）期限表示が、間違いなく印字されているかを確認しているか？ など

点検で問題があった時は、工場と協力して改善しています。



■ 組合員の声を受け止め、商品や事業に活かします。

商品に関するあらゆる声を、電話や私もひとことカードで受け付けています。声の内容は、商品の品質への意見や商品リクエスト、原料・原産地の問い合わせ、使い方への質問 など多岐にわたっています。一つひとつの声から真意をくみ取り、想いを受け止めるように心がけています。



組合員の声から改善につながりました

CO・OPさつまいもと きんとき豆の煮物



「きりくち」で切っても、その下の部分も密着していて、ハサミで切り直さないと開けられません。

〈改善前〉



ここに「きりくち」がありました。

「きりくち」の位置を下げました。

〈改善後〉



CO・OPブラウンサーブロール



パッケージには800w、1000wの調理方法が記載されていますが、うちのオーブントースターは、温度を設定するタイプです。温度も表示してほしいです。

包材に、温度調節機能付きオーブントースターでの調理方法を記載するようにしました。

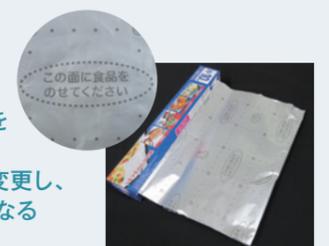


CO・OPくっつかないホイール



調理する時、どちらの面に乗せたらよいのか、分かりません。

食品をのせる面に「使用面」の印字をしました。また、巻の向きを変更し、使用面が上向きになるようにしました。



地域の見守り活動



甲良町との協定締結式



おむつ宅配便



ささえあいサポート (家事援助)

● 2016年度のささえあいサポート件数 (分類別)

サポート内容	件数
家事援助 (食事作りなど)	1,211
掃除・片付け・模様替え	797
子ども見守り・託児	527
草取り・水やり・庭木剪定	405
ペットの散歩などのお世話	251
高齢者などの身の回りのお世話	218
その他	144

■ 事業や活動を活かした見守り活動

コープしがでは、生協の事業活動を通して、誰もが安心できる地域づくりに取り組んでいます。地域の見守りについては、2016年度新たに甲良町、多賀町と協定を結び現在9つの市町と協定を結んでいます。滋賀県下全域をカバーしている宅配や夕食サポート弁当の配達業務を通じて、地域や人の異変を発見したときに情報を自治体などにつながることとなっています。協定を締結していない地域でも、見守りの大切さを意識し配達などを通じ見守り活動を行っています。協定締結の市町【米原市・草津市・長浜市・高島市・近江八幡市・彦根市・愛荘町・甲良町・多賀町 (締結順)】

■ 東近江市の「見守りおむつ宅配便」

コープしがは東近江市の1歳未満の子どもの居る家庭に毎月おむつ等を届ける「見守りおむつ宅配便」の業務を受託しました。おむつ等を配達するのは新たに採用した子育て経験のある専任スタッフ (宅配便メイト) で、子どもやお母さんの健康状態の確認や、悩み事を聞くなど、孤独になりがちな子育て中のお母さんを支援しています。



■ その他の地域を守る取り組み

全役職員が「認知症サポーター」となるよう、養成講座に継続して取り組むとともに、滋賀県の「オレンジリボンキャンペーン～子どもを虐待から守ろう～」にも参加しています。「飛び出し注意看板」の配布活動や、配送トラックへの「子ども110番」の表示など、地域の安全を守る活動を進めています。

[ささえあいサポート]

組合員同士が「おたがいさま」の気持ちで暮らしを支えあう「ささえあいサポート制度」は10周年を迎えました。産後の家事のお手伝いや、庭の手入れ、留守中のペットのお世話などを、組合員さんやそのご家族がお手伝いします。プロではありませんが、組合員どうしの有償の相互扶助制度として実施しています。2016年度は、3,553件のサポートがありました。

東日本大震災復興支援の取り組み

■ 震災を忘れない募金

東日本大震災の支援活動として、誰でも参加できる支援行動、「震災を忘れない募金 (くらし・地域復興応援募金)」を毎月11日前後の週に継続して取り組んでいます。2016年度は、2,832人の組合員から2,058,580円の募金をお寄せいただきました。寄せられた募金は、被災地の3つの生協 (いわて生協、みやぎ生協、コープふくしま) に分けて送金し現地で支援活動に役立てられています。

■ 震災を忘れない これからの地域とくらし交流会

福島県の産直生産者「(株) ジェイラップ」の方を招いて、産地の現状や、復興に向けての課題について学びました。また、被災地のボランティアを経験された神戸の社会福祉協議会の方から、災害から見てきた課題や、くらしの復興や、災害に負けない地域づくりについて学ぶ活動に取り組みしました。



震災を忘れない学習・講演会

■ そのほかの支援活動

東北サンネット事業連合が取り組む、被災者の生活再建の「手作り商品カタログ」の配布や、福島の農産物を応援するギフト企画についてホームページで案内し利用を呼びかけるなど、買い支える活動も応援しています。

[各地の災害への対応]

2016年に発生した災害の被災者を支援するため、以下の募金に取り組みしました。また、自然災害の被災生産者にお見舞金をお届けしました。

2016年熊本地震緊急支援募金	12,308,737円
熊本地震での被災生産者・生協に対する組織募金	500,000円
岩手県・北海道台風被害緊急募金	1,976,255円
鳥取県中部地震災害募金	1,650,794円



手作り商品カタログ

ホームページで福島応援ギフト企画



生協くまもと お見舞い

県内農業・日本農業の発展に向けて

滋賀県は稲作を中心とした農産物の生産県ですが、県内の食料自給率（カロリーベース）は約50%で緩やかに低下してきています。コープしがでは農産物の持続可能な安定供給を目指して、地産地消・産直提携の強化を進めています。

■「ファーマーチャレンジ隊」の取り組み

県内のJAと共同で、生産者と消費者（組合員）が直接交流し、野菜の植え付け・栽培管理・収穫体験を通して、地元農業や食育、環境などへ理解が深まることを目的に取り組みを進めています。将来的には、この取り組みから新規就農者や地域農業をサポートする人が生まれることにつながっていきます。

2016年度は、新たに2つのJAとの取り組みも始まり、4つのJAの畑でさつまいも、じゃがいも、大根の栽培体験をしました。



ファーマーチャレンジ隊

■ 田植え、稲刈り体験の取り組み

県内産直米産地のJAを中心に5つのJAの田んぼで田植え、稲刈り体験をしました。「コープしがが大切にしている食育」の実践活動のひとつとして、食について学び体験し健康に生きる力を育みました。



田植え体験



稲刈り体験

■ 飼料米利活用の取り組み

家畜のエサも地産地消として飼料米の利活用に取り組んでいます。県内産の飼料米を「産直こめ育ちさくらたまご」の親鶏のエサに15%配合（もみ換算）して与え、循環型農業・環境保全を進めています。また、「産直平牧三元こめ育ち豚」や「産直鳥取こめ育ち牛」などの飼料米を与えた肉の取扱いも進めています。



産直こめ育ちさくらたまご・飼料米と生産者



こめ育ち
さくらたまご

鳥取
こめ育ち牛

平牧
三元こめ育ち豚

■ 産直・地場商品の取扱いの推進

商品案内書「ばくばくエコー」では県内商品や産直商品の取扱いを積極的に行っています。店舗でも地元野菜コーナーを設けるなど地産地消の取り組みを進めています。



ばくばくエコー

● 2016年度産直商品の実績（宅配事業）

項目	2014年度	2015年度	2016年度
産直生産者数	63	65	66
延べ企画数	4,097	4,091	4,348
供給高（千円）	1,800,697	1,837,847	1,906,950

平和の取り組み

■ 平和を願う取り組みをすすめました

原爆投下、終戦となった夏に「平和」や「戦争」について知り、考える取り組みを継続して行っています。滋賀県内に残る戦争の傷あとを巡る「県内戦争遺跡めぐり」、日本生協連と広島県生協連が主催する「ピースアクションinヒロシマ」、三井寺の「原爆犠牲者慰霊・世界平和祈願法要」、「日本国憲法について学ぶ」取り組みなどを行い、平和の大切さについて考える機会となりました。



県内戦争遺跡めぐり



ピースアクションinヒロシマ



広島平和記念式典



憲法を考える学習会

■ 世界の子供たちの未来のために

[書き損じハガキ回収キャンペーン]

民間の国際協力団体『特定非営利活動法人ハンガー・フリー・ワールド』が取り組んでいるもので、書き損じハガキや切手・商品券などを集め、換金して飢餓の無い世界を創るための活動に活かしています。コープしがは2013年度から取り組みに参加し、2016年度は3,894,790円の換金額となりました（4年間の合計で約1,577万円）。バングラデシュ・ウガンダ・ベナン・ブルキナファソの栄養改善、識字率向上などの財源として生かされます。



[ユニセフ募金]

2016年度ユニセフお年玉募金などに4,235,556円をお寄せいただきました。このうち100万円を指定募金として「ミャンマーの女性と子どものための栄養支援プログラム」に贈り、残りを一般募金として贈り、世界各地のユニセフ活動に活用されます。



ユニセフ募金感謝状

さまざまな組合員の参加の場

■ ばくばくパーティー

「ばくばくパーティー」は、ご近所、友達、職場、ご家族などで生協が無料でお届けする商品を開んで、気楽に楽しくおしゃべりしてもらう取り組みです。おしゃべりの中からくらしの困りごとや生協への期待などを「ばくばくメモ（報告書）」

として出してもらい、生協の方針づくりや業務の改善などにつないでいきます。

2016年度は6,476カ所で取り組まれ2万人を超える参加者となりました。



つどい型ばくばくパーティー（安曇川）



理事による「ばくばくメモ」の読み込み

■ チーム活動・ひろば活動

チーム活動は、組合員が地域の中の様々な人たちと一緒に自由で柔軟な発想で、仲間たちで取り組むことができる活動です。ひろば活動は、「商品・環境・福祉・平和・子育て・

消費者力」などのくらしのテーマに沿って、自主自発的に企画し、参加者を募って取り組む活動です。どちらも、組合員自らの「想い」を実現することを生協が応援します。



チーム活動「BBC」



ひろば活動「楽育ママ」

■ コープ倶楽部

コープ倶楽部は食、子育て、環境のことなど身近なくらしのテーマについて1年間かけて、楽しくおしゃべりをして、ちょっとしたくらしの知恵を教え合ったり、新しい発見、新しい友達ができたりする“場所”です。組合員のコープ倶楽部コーディネーターが企画や進行をするので、気軽に質問したり意見を言ったりできます。2016年度は30会場で開催し378人の参加がありました。



「コープ倶楽部」能登川会場



「コープ倶楽部」（さきら会場）

■ 地域委員会

地域の組合員に最も近い組合員活動組織です。コープシガの方針を受けて、地域の組合員の声を聞きながら、話し合いの中から具体的な活動に結び付けていきます。様々な視点から、地域の課題に即した行事企画をすすめます。



CO・OP洗剤学習会（大津西地域委員会）



湖北の冬をこしらえる（長浜北東地域委員会）

「たべる*たいせつ」活動がすすみました

ラブコープキャンペーンの取り組みで、コープ商品のおいしさと良さを知り、生産者と交流し、食育を学ぶ取り組みを継続的に進めました。

■ たべる*たいせつ親子クラブ

コープシガが大切にする食育の実践として、家庭で子供たちにのぞかしい食生活・食習慣が育まれるように、食に関する学習や調理実習を親子で行いました。「食品を見分ける」「魚のさばき方」などをテーマに、買い物体験、栄養バランスを考えた食事、野菜の栽培や収穫体験などを行いました。



親子クラブ・買い物体験



親子クラブ・調理実習

■ 産直交流企画を各エリアで開催

コープシガの産直＝「産地直結」を、生産者と組合員が互いに顔が見える交流を通して、理解を深める取り組みを、各エリアごとに工夫を凝らし組合員が中心となって開催しました。



産直交流企画（第3エリア）



産直交流企画（第5エリア）

■ コープ知ってねばくばく試食会を75会場で開催

組合員に生協商品の良さを知ってもらうために、生産者・メーカーに来てもらい直接説明を聞き、美味しさを確かめ、商品づくりへの想いを知る学習会を前年度に引き続き県内各地で開催しました。組合員は、商品案内書だけでは知ることができなかった色々なことが分かり、今後の商品利用の参考となりました。



ばくばく試食会・草津センター



ばくばく試食会・高島センター

■ 商品大交流会

2016年度は商品大交流会を、近江八幡市と長浜市のホテルを会場に2回開催しました。毎回50以上の生産者・メーカーに出店いただき、組合員とその家族・友達が約800名参加しました。いろいろな商品を試食して、多くの生産者と話して商品や生産者との信頼関係が深まりました。笑顔があふれる楽しい交流会です。



2016冬の商品大交流会



2016夏の商品大交流会

働きがいのある職場づくり

■ コープしが職員像

「一人ひとりの組合員が信頼と安心をいつも感じる事ができ、一人ひとりの組合員にとって大切な生協」と思ってもらえるように仕事に取り組む必要があります。そのために「コープしが職員像」に示されたことが当たり前に行えるようにすすめています。

■ 人材育成方針に基づく教育研修と能力開発

職員が組合員のくらしづくりに貢献できるよう「コープしが職員像」から一人ひとりの職員に求められる行動を示し、それらの行動が実践できるように必要な教育研修を組み立てています。

■ 安全で安心して働ける職場環境の実現

「中央労働安全衛生委員会」と職場ごとの「職場労働安全衛生委員会」を設け、労働災害の発生防止や5S推進、健康増進活動、腰痛予防体操や腰痛健診の実施安全運転研修など働きやすい環境づくりを進めています。

また、「ハラスメントに関する基本方針」を定め、セクハラ、パワハラ等の行為防止の啓発の取り組み、「ヘルプライン相談窓口」「メンタルヘルス相談窓口」を設けています。

● 労災事故発生件数 (件)

年度	件数
2014年度	35
2015年度	30
2016年度	27

● ヘルプライン対応件数 (件)

年度	件数
2014年度	3
2015年度	6
2016年度	3

■ 素直に感謝しあう職場風土づくり

コープしが職員の行動が、組合員や地域の方から「良かった、ありがとう」と感じていただいた事例を共有するために表彰制度を設け、個人のモラル向上や仕事レベルアップにつなげています。



入協式



自主研修コープしがカレッジ



安全運転研修



職場風土づくり

コープしが職員像 コープしがの職員は一人ひとりが自立し集団の力で前進します

三つの心得

1. さわやかな笑顔で元気に挨拶します
2. 約束や職場のルールは必ず守ります
3. 誰にでも正直、親切、丁寧、素直に接します

行動綱領五箇条

1. 人の傷みがわかる心もち、地域社会に奉仕します
2. 常にコスト意識をもち、ムダ・ムラ・ムリをなくします
3. いかなる仕事も情熱をもって最後までやり遂げます
4. 豊富な知識を身につけるため、努力を惜しみません
5. 健全な精神、健康な身体を維持します

ルールに基づいた運営

■ コーポレートガバナンス

【機関運営】

コープしがの機関は、組合員の代表である総代が方針や事業計画などを決定する総代会、総代会で選任された理事会と組合を統轄し業務執行する代表理事、その決定や業務執行を監視する監事で運営を行っています。

【理事会】

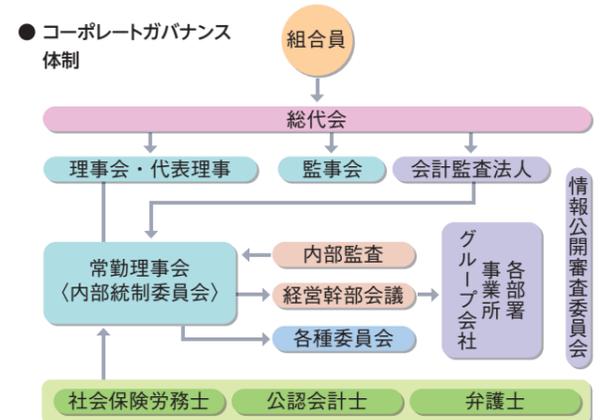
理事会は毎月開催し、総代会で承認された方針の意思決定と代表理事や常勤理事会の日常業務の執行状況を確認しています。

【監査】

総代会から負託を受け理事会の業務執行を監査する「監事監査」、会計監査法人による「外部監査」、内部監査担当による「内部監査」の三様監査でチェックしています。



第36回通常総代会(2016年)



■ 組合員の運営参加

【3つの運営参加】

組合員は、宅配事業や店舗などの利用を通じて参加する「事業活動ライン」、地域委員会やエリア活動を通じて参加する「組織運営活動ライン」、そして「総代」として懇談会や総代会議案検討会議などを通じて参加する「機関運営活動ライン」の3つで生協に運営参加します。

【総代の活動】

総代は、総代会に参加しコープしがの方針を決定します。そのために総代会に向けての年3回の会議で、活動参加や利用参加を通じての組合員のくらしやニーズなどの意見を述べます。



年度末総代懇談会

■ 内部統制基本方針に基づく運営

【コンプライアンス】

「コープしがで働く私たち一人ひとりが、法令及び規則、ルール、社会的規範を守り、すべての利害関係者、とりわけ組合員のくらしに役立つために行動し、その使命を果たすために全力を尽くす」ことを誓い、コンプライアンス基本方針・自主行動基準を定めています。実践に向けて毎年全職員が学習を行い、セルフチェックで達成状況の確認を行っています。

【リスクマネジメント】

コープしがの全業務に係わるリスクを洗い出し、個々に分析・評価を行い、リスク管理表を作成し発生防止に努めています。全職員にリスク教育を行い、発生防止対策や発生時と収束後の対応をルール化し徹底しています。

【個人情報保護】

個人情報保護法にもとづき組合員データを適切に管理しています。個人情報は規定やルールを明確にし、適正に取得・利用・管理・廃棄の手順を定め、職員教育を徹底しています。取引先や委託業者には覚書を交わし、安全管理の義務付けと定期的な点検を行っています。

【危機管理】

重大なリスクが発生した場合、速やかに対応するため危機管理規定や危機対応マニュアルを定め、訓練等を行っています。地震や台風など大規模災害の対策は、震災対策マニュアルやBCP（事業継続計画）を整備し、組合員や地域への事業者責任を果たす準備や対策を講じています。

びわ湖に親しみ保全に取り組む活動

コープしがでは「びわ湖を大切にできる場所」を育む活動を「びわこ*たいせつ」活動として、琵琶湖の水源を守る「コープの森」の取り組みや、コープしがびわ湖の日の「湖岸清掃ウォーク」など、組合員や役職員と一緒に環境の取り組みを進めています。2016年度も多様な取り組みに組合員・役職員約1,000人が参加しました。

■ コープしがびわ湖の日・湖岸清掃ウォーク

毎年9月の第1土曜日を「コープしがびわ湖の日」と定め、実施している琵琶湖岸の清掃活動。2016年度は琵琶湖博物館（草津市）周辺の湖周道路沿いの清掃に組合員、役職員約400人が集まり、約2時間の清掃活動で収集コンテナ1台分のゴミを回収しました。



湖岸清掃ウォーク

■ 「ニゴロブナの稚魚放流」と学習・試食会「びわ湖のめぐみ発見」

放流までの2ヶ月間、家庭で育てたニゴロブナの稚魚を放流会場となった烏丸半島（草津市）のホワイトビーチに持ち寄りました。家族で成長を見守ったニゴロブナを放流し、元気に泳ぎ出す稚魚を見送りながら湖魚を守る取り組みや命

の大切さを感じました。

放流後は琵琶湖博物館で琵琶湖の固有魚と“琵琶湖八珍”について学習し、ピワマスを使ったアメノイご飯の試食を行いました。



ニゴロブナ放流



琵琶湖の固有魚の学習



■ 湖魚を学ぶ・ピワマス放流体験

びわ湖で獲れる水産物の水揚げ量は様々な理由で減少傾向となっています。琵琶湖環境科学研究センターや滋賀県漁連の方から、琵琶湖と湖魚（主にピワマス）について学び、滋賀の郷土料理「アメノイご飯」の試食や、ピワマスの稚魚を安曇川に放流しました。琵琶湖と河川、生き物について考える機会となりました。



アメノイご飯試食



ピワマス放流

■ 琵琶湖のヨシを守る

琵琶湖のヨシ原は水を浄化したりニゴロブナなどの産卵場所になったりしています。冬の間にヨシを刈り取ることで、次の春に良いヨシが生えることとなり、琵琶湖を守ることに繋がります。コープしがは他の団体とともに琵琶湖のヨシを守る活動に参加しました。



西ノ湖のヨシ刈り



コープの森の取り組み

びわ湖の水源の森を守るために「コープの森 余呉」（長浜市）と、「コープの森 あぶらひ」（甲賀市）の二つの生産森林組合と琵琶湖森林づくりパートナー協定を結び、森林整備費用の協力を行っています。また、職員ボランティアによる間伐や整備道づくり、組合員の自然観察会、新たな取り組みとしてどんぐりプロジェクトに取り組みました。

■ コープの森 森林整備ボランティア、やさしい自然観察会

職員のボランティア活動として、森林整備のための整備道づくりや間伐作業を行いました。また、組合員親子による獣害防止のためのテープ巻きや地元のガイドさんの案内で植物観察会を行いました。



コープの森余呉

間伐ボランティアと自然観察会

■ コープの森あぶらひ どんぐりプロジェクト

「コープの森あぶらひ」では戦後植林された杉・檜林の一部をクスギに転換する事業がすすめられています。「植林」という事業に組合員が家族で発芽苗から約9ヶ月間育て、「コープの森」に植樹して森の整備、育成に関わっていく取り組みとして「どんぐりプロジェクト」がスタートしました。どんぐりの木が生長したら椎茸のホダ木として活用される予定です。記念植樹のあとは椎茸の菌打ち体験を行いました。



コープの森あぶらひ

どんぐり苗の植樹



どんぐりプロジェクト

商品の利用を通して環境に貢献する活動

琵琶湖の環境保全に役立ててもらうため、CO・OP洗剤や産直米の利用に合わせた金額を「マザーレイク滋賀応援基金」に寄付する取り組みを継続しています。水環境にやさしいCO・OP洗剤や、環境こだわり農産物の滋賀県産産直米（登録）の利用を増やすことで、環境に配慮した商品の普及と寄付の両面で環境保全に貢献することにつながります。

● 2016年度寄付金額

商品	利用料	寄付金額
産直米登録利用	375,728Kg	375,728円
CO・OP洗剤	64,454点	64,454円
合計		440,182円

事業に関する環境報告

コープしがは「2020年に向けた新たな環境政策」に基づき、事業と活動の両面で地球温暖化防止や自然環境の保全などの課題について、4つのテーマ（①組合員活動としての環境保全、②産直や地産地消などの環境配慮商品の強化、③温室効果ガス（CO₂）の総量削減、④廃棄物の更なる削減と事業化）で取り組みを進めています。

エネルギー資源の効率的な使用と 温暖化効果ガスの削減

[エネルギーの効率的な使用]

電気使用量は、継続的に削減に取り組んできましたが、既存事業所では削減が難しくなっています。2016年度の電気使用量の目標は、前年開店したコープもりやま店が通年営業となることを考慮し、コープもりやま店を除いた事業所で前年実績を維持することです。年間使用量は目標比3.9%超過となり、コープもりやま店の実績加えると、前年比32.7%の大幅な増加となりました。

[温室効果ガスの削減]

温室効果ガスは、コープしがだけでなく関連する子会社、物流センター、委託配達も含めて管理しています。環境政策では、2005年の温室効果ガスの排出量を基準とし2020年には20%削減すること目標にしています。2014年度には13.4%削減となっていたが、その後のSM2店舗の改築や新規出店、宅配事業の伸張による車両燃料の増加等により、2016年度の温暖化効果ガスの削減率は、2005年度の2.3%削減にとどまりました。（2016年度供給高は2005年度比35%伸長）

※電気CO₂排出係数は、2005年度時点の数値を2020年まで使用

車両燃料からの温室効果ガスの排出量を削減するため、BDF（※）燃料を5%配合した軽油を宅配3センターの車両に導入を行っています。

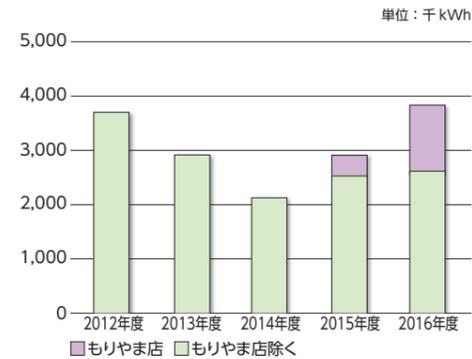
※BDFは、廃食油を原料とするディーゼルエンジン用の燃料です。コープしがは、軽油にBDFを5%添加したBDF5を使用しています。

温室効果ガスの排出量は含めませんが、ドライアイス使用量の管理も行っています。2015年12月から更新した保冷効果の高い冷凍大型ボックスの効果もあり、前年の78.9%に大幅削減することができました。

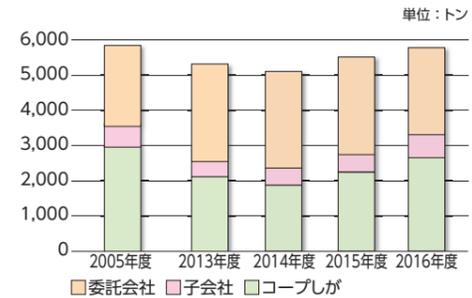
●ドライアイス使用量



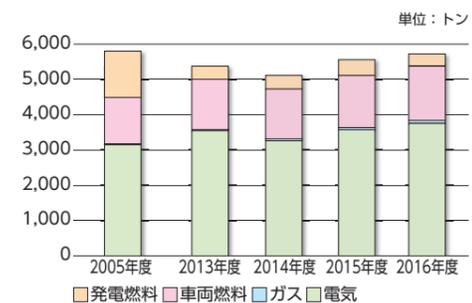
●電気使用量



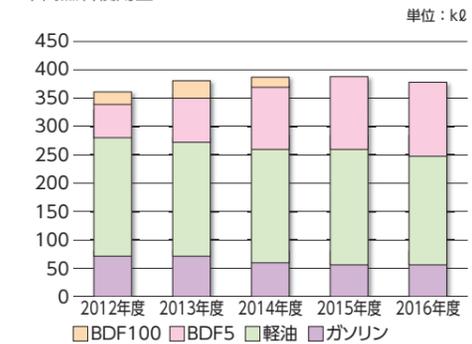
●温室効果ガス排出量 (組織別)



●温室効果ガス排出量 (発生源別)



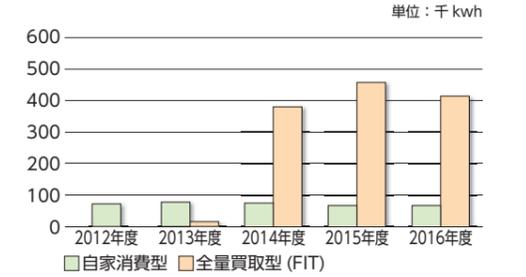
●車両燃料使用量



[再生可能エネルギーの活用]

コープしがの太陽光発電設備は、現在総発電容量が516kwとなっています。2016年度は、機器の故障や日照時間、降雪の影響により全量買取型、自家消費型ともに発電量は前年を4.3%下回る実績となりました。売電額は1,568万円でした。

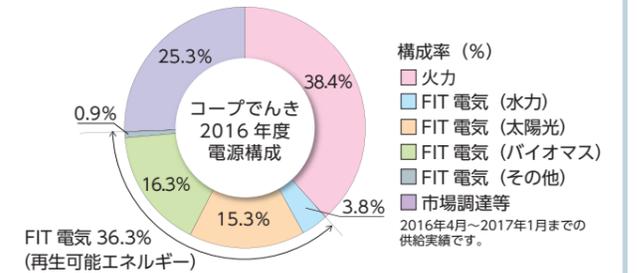
●太陽光発電発電量



トピック

「コープでんき」の取り扱いを開始しました

2016年4月から「電力の小売り全面自由化」が始まりました。コープしがは組合員に電気代が節約でき、再生可能エネルギーによる電気の割合が高い「コープでんき」の取り扱いを開始しました。年度末で3,652人の方にご利用いただいています。



廃棄物の削減とリサイクル

[廃棄物の削減]

コープしがでは、一般廃棄物は食品廃棄物とそれ以外に分別し、食品廃棄物は飼料に再生しています。産業廃棄物は大半が廃プラ類になりますが、有価物として売却できるものは分別・減容加工し再生原料として販売しています。分別できない残りは処理業者がRPF（固形燃料）に加工して有効利用されています。それ以外に分別した廃棄物は、当該行政の焼却場で焼却処分します。

2016年度はコープもりやま店の通年営業等により、産業廃棄物（廃プラ）が前年比3.4%増え、一般廃棄物（焼却処分）は79%増と大幅に増加しました。

[食品リサイクル]

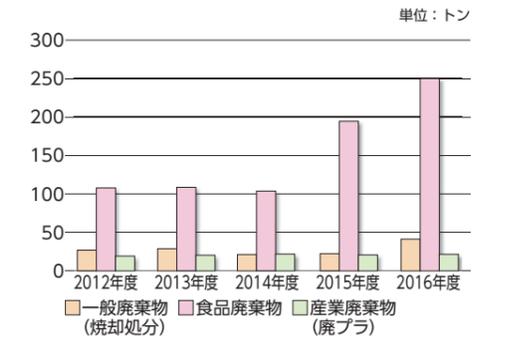
食品廃棄物は、コープもりやま店の通年営業に伴い前年比32.6%増と大幅に増加しました。食品廃棄物は主に飼料に再生して有効活用を図っています。排出量の55%以上を再生することが法律で義務付けられており、2016年度は目標を超える98%を再生利用しました。また、排出の抑制では、売上高百万円あたり65.6kg以内という努力目標が設定されていますが、2店舗の排出量は46.5kgで目標以内に抑えることができました。

[リサイクル活動]

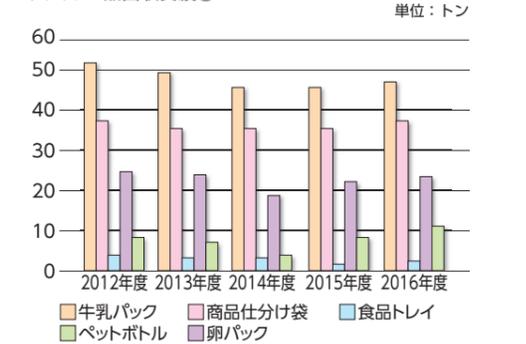
コープしがでは宅配や店舗事業で商品と一緒に組合員に供給した容器包装や、商品案内書は、出来るだけ組合員から回収して資源としてリサイクルしています。2016年度は、宅配事業の伸長やコープもりやま店の通年営業などにより、すべての回収品で前年実績を超える回収量となり、目標（前年実績の維持）を達成しました。

回収率では、商品案内書が前年より3.4%向上し55.7%に、商品仕分け袋は0.1%向上して33.6%となりました。

●廃棄物排出量



●リサイクル品回収実績①



【リサイクル事業】

組合員から回収したリサイクル品や物流センターで出るストレッチフィルム、PPバンド、ダンボールなどは、近江八幡市のアズコム物流センター内の「リサイクルセンター」に集め、分別や減容(圧縮)処理して、再生原料として販売するリサイクル事業を行なっています。最もウエイトが高いチラシ類の販売量が増えたことから、販売額総額は、5076万円(前年比11.3%伸長)になりました。リサイクルセンターの作業量が増えたため、2015年度から障がい者の雇用を1名増やしての作業を行なっています。

● 有価物販売額(紙類)



環境に配慮した商品の取扱い・購入

【県内商品の取り扱いを増やし地産地消をすすめる】

宅配での2016年度目標は、コープしが独自企画の「ばくばくエコー」で県内商品の企画点数を5%増やすこととしました。対象商品は、県内生産品・県内生産材料を使用した商品とし、目標を上回る前年比9.1%増の2,948企画することができました。

店舗では、県内農産物の供給高5%増を目標に対し、計画比16.3%伸張の5700万円の実績となり、地場商品の取り扱いが大きく伸びました

【グリーン購入】

グリーン購入対象商品を優先的に購入する活動は、事務用紙と事務用品に区分して管理しています。事務用紙は、グリーン購入対象紙の使用が定着し、購入率は99.85%(重量比)になっています。事務用品の購入率は65.45%(点数比)でした。

【環境に配慮した商品の取扱い】

商品案内書エコーやくらしのパートナーで取り扱いのコープきんき共同企画商品でも環境に配慮した商品の取り扱いが増えました。

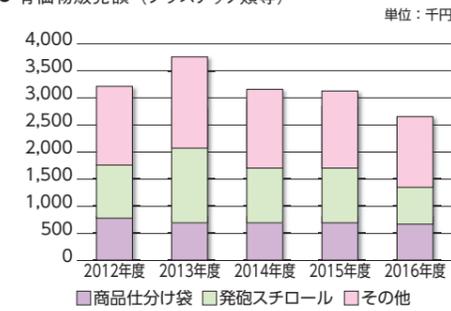
● 環境配慮商品実績

環境配慮商品	説明	利用点数	前年比
エコマーク	生産から廃棄を通して、環境負荷が少なく、環境保全に役立つと認められた商品	252,287	100.8%
FSC	適切に管理された森林資源で作られた商品	214,015	129.4%
MSC	持続可能な漁業で獲られた水産物で作られた商品	101,227	94.5%
有機栽培	農業や化学肥料に頼らず環境負荷を減らして栽培しJAS認証を受けた農産物	149,133	102.0%
特別栽培	慣行栽培と比べ農薬・化学肥料の量が50%以下で栽培された農産物。	388,494	107.8%
レインフォレスト	熱帯雨林を守ることを目的に持続可能な農業を営む農園で育てられた商品	13,802	105.2%
コアノン・スマイルスクール	コアノンロール利用でアンゴラの学校づくりを支援する	81,425	99.9%
レッドカップキャンペーン	対象商品の利用で飢餓に苦しむ子どもたちに給食を支援する	82,598	100.6%
フェアトレード	発展途上国の農産物や商品を公正な価格で取引された商品	981	44.2%
産地指定	主要な原料に産地や栽培方法が明らかで国産素材を使った商品	1,192,940	122.3%
国産素材	主要な原材料に国産素材を使っている商品	3,112,167	111.8%

● リサイクル品回収実績②(紙類)



● 有価物販売額(プラスチック類等)



● 宅配の県内商品企画数



● グリーン購入率



コープしがの概要

(2017年3月20日現在)

- 名称 生活協同組合コープしが
- 設立 1993年3月21日
滋賀県内4生協が合併して発足。
(大津生協・湖南生協・東部生協・北部生協)
- 本部 滋賀県野洲市富波甲972番地
TEL 077-586-1112 (代表)
- 理事長 西山 実
- 専務理事 白石 一夫
- 組合員数 17万7,737人
- 加入率 31.8%(滋賀県559,128世帯)
- 出資金 109億7,608万円
- 供給高 314億3,500万円
(内訳) 宅配事業 274億1,035万円
店舗事業 35億3,297万円
夕食宅配 2億9,386万円
エネルギー事業 1億9,780万円
- 職員数 正規職員 283人
嘱託職員 20人
定時職員 595人(正規換算265.7人)
※定時職員に専属職員、アルバイト含む



コープしがの事業所・事務所一覧

本部・事務所・その他施設

本部	野洲市富波甲 972
福祉ネットワークセンター ゆめふうせん	大津市真野 5-33-25
草津事務所	草津市西草津 2 丁目1-1
ケアサポートセンターぼこ	大津市柳川 2 丁目11-25
ケアサポートセンターぼこ野洲	野洲市富波甲963-1

宅配事業センター

南草津センター	草津市笠山 5 丁目 3-50
北大津センター	大津市真野 5-33-25
草津センター	草津市上寺町カスリ 281-1
中央大津センター	大津市国分 2-226-22
甲南センター	甲賀市甲南町市原 303-6
東近江センター	東近江市五個荘清水鼻町 153-6
長浜センター	長浜市西上坂町 1020-1
彦根センター	彦根市竹ヶ鼻町 224-1
高島センター	高島市新旭町新庄 799

店舗

コープぜせ店	大津市竜が丘 1-1
コープもりやま店	守山市勝部 3 丁目 15-30

グループ会社

株式会社タクス	野洲市富波甲 977
株式会社コープシステムサービス	近江八幡市長光寺町瓶割山95-4 (AZ-COMロジスティック滋賀内)
株式会社シガフードプロダクツ	甲賀市甲南町寺庄 330
株式会社滋賀有機ネットワーク	近江八幡市長光寺町瓶割山95-4 (AZ-COMロジスティック滋賀内)

コープしがのグループ会社

株式会社タクス	組合員のくらし全般をサポートするために、生協では扱えない事業分野を担っています(損害保険、生命保険、旅行、宅地建物取引など)
株式会社コープシステムサービス	物流に関する専門的なノウハウにより、適切な物流管理を担っています(倉庫・保管庫の管理、物流センター管理運営、物流資材の調達など)
株式会社シガフードプロダクツ	精肉の生産、流通及び加工までを一元管理し、安全・安心・良質な肉を適正価格で安定供給する(牛豚肉のバック加工、畜産加工品の販売など)
株式会社滋賀有機ネットワーク	県内での産直農産物の産地づくり推進と、農産品の流通を担う(穀類・野菜類・果物類の生産と加工。農作業及び農業経営の受託など)



生活協同組合コープしが

<http://www.pak2.com/>



- 用紙: 適切に管理された森林の木材を利用したFSC®認証用紙
- インキ: 大豆油インキを含む植物油インキ
- 印刷: 有害な廃液を排出しない水なし印刷
- 製造、廃棄に発生するCO₂をカーボンオフセット済
- CO₂排出量: 310.2g/部